

古河電工

6.6kVアルミニウムCVT初納入 鹿児島メガソーラー、447m

古河電工は12月17日、6・6kVのらくらくアルミニウムケーブルを、鹿児島県のメガソーラー発電所に納入したと発表した。阿久根第一、第二太陽光発

電所の建設工事に採用され、新製品である6・6kVの納入は同社で初めて。6・6kVのアルミニウムCVT（EE）60mmを447m、600VのアルミニウムCVD100mmを2千799m、600VのアルミニウムCVD400mmを2千98m納入した。

今回の案件は、鹿児島県の阿久根第一発電所（施工は九州おひさま発電、出力1千990kW）と阿久根第二発電所（同九州エナジィ、出力1千990kW）の建設工事。両発電所ともに大鹿電業が設備の施工、延線作業を行った。これに伴い、高圧キュービクル間の配線に6・6kVのAL-CVT、集電箱と接続箱間の配線に600Vの

AL-CVD（100mm）接続箱とPCS（パワコン）間の配線に600VのAL-CVD（400mm）が採用された。また、キュービクル内での端末処理に古河電工パワーステム製屋内終端接続材料が使用された。大鹿電業は、「600Vと6・6kVのアルミニウムケーブルの採用は、軽量化による省力化効果を狙い、実際に約20%の削減効果があった。また、作業員の疲労もかなり軽減された。6・6kVの端末処理のブラッシング工程も、慣れば何の問題もない」とした。

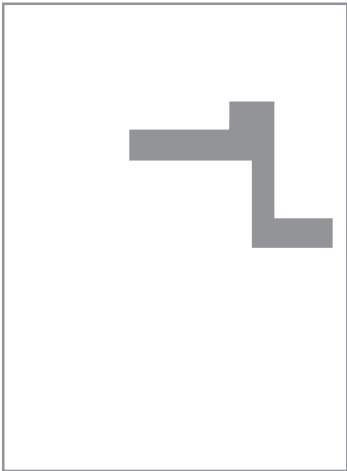
電所の建設工事に採用され、新製品である6・6kVの納入は同社で初めて。6・6kVのアルミニウムCVT（EE）60mmを447m、600VのアルミニウムCVD100mmを2千799m、600VのアルミニウムCVD400mmを2千98m納入した。



阿久根太陽光発電所



6.6kVアルミニウムCVTの延線



電線新聞